

桑納川リュウノヒゲモ試験移植

桑納川リュウノヒゲモ 試験移植

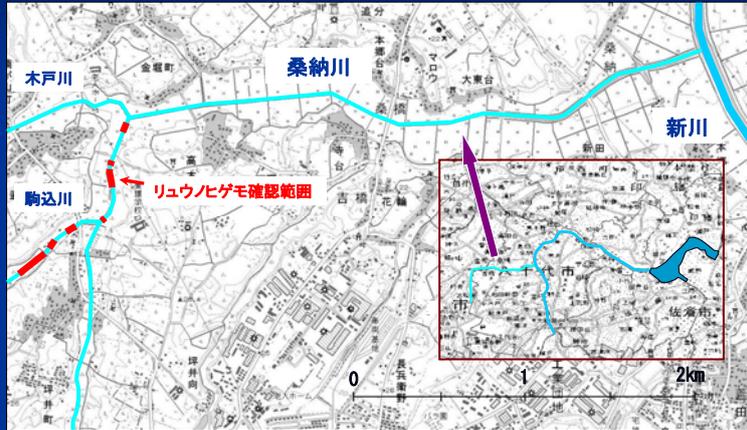
千葉県千葉地域整備センター

リュウノヒゲモとは



リュウノヒゲのように細長い水生植物 桑納川の未改修区間に生育
(国と千葉県のレッドデータブック記載種)

桑納川における生育状況

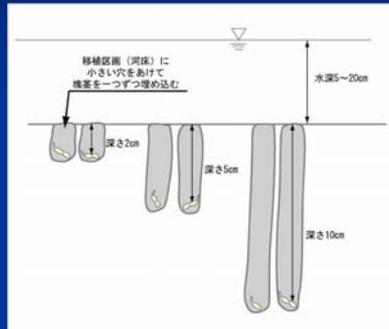


木戸川合流点より上流の未改修区間と駒込川で確認

試験移植の考え方



塊茎移植

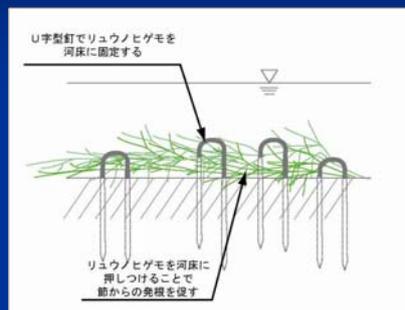


冬季に形成される塊茎(レンコンのようなもの)を採取し、移植先に植え付ける。手法を改良して2回実施。

メリット : 地上部が枯れている冬季に移植が出来る

デメリット: 塊茎の採取・植え付けに手間がかかる

生長株移植



良く生長したリュウノヒゲモを掘り取って、移植先にU字釘などで固定し、節からの発根を促す。

メリット : 生長株は採取が容易

デメリット: 移植時期は生長が盛んな夏季中心の時期に限られる

移植試験結果の概要



移植区画3の変化

移植直後は良好な生育が見られ、両移植方法とも移植方法としては問題ないと思われる。

ただし、増水後に河床ごと洗掘されてなくなることが多く、現在の桑納川では河床そのものが安定していないことが課題。

試験移植を踏まえた実際の移植保全



平成20年2月にリュウノヒゲモ生育区間の改修を行うことになったため、試験移植を踏まえた移植保全を実施した。

移植時期が冬季であるため、塊茎移植を行い、842株の塊茎を移植した。今後モニタリングを行う。

今後の課題



この移植区間は増水時の洗掘という問題点があったが、桑納川の改修工事の進捗に伴い、木戸川合流点上流側のやや流量が少ない改修済み区間への移植も考慮する。